

■ 林業試験場成果発表会に多数の参加

2月14日に上富田文化会館にて成果発表会を開催したところ、100名を超える皆様のご参加をいただき、誠にありがとうございました。



口頭発表は5課題とし、その他の成果はポスター発表(展示)し、詳細に見てもらいました。当日、研究員と熱心に話される光景も多く、関係者とのコミュニケーションが見られました。

私ごとですが、この3月で定年退職です。これまでのご協力に感謝するとともに、今後も林業試験所へのご支援よろしくお願ひします。

(場長 城戸杉生)

<口頭発表>要約

○「ヒノキ実生コンテナ苗の育成技術開発」

経営環境部 研究員 竹内 隆介

コンテナ容器へヒノキ種子を直接播種する育苗技術の開発に取り組んだ。高発芽種子の精選について、0.075%合成洗剤水溶液での精選率が最も高かった。



直接播種したコンテナ苗

直接播種苗木は4月播種の3ヶ月後の間引きにより形状が良くなり、培地改良により成長が良くなる傾向がみられるなど、育苗条件を改良することで育苗初期の成長を促進できる可能性を明らかにした。

○「スギノアカネトラカミキリの生態と被害抑止」

経営環境部 主査研究員 法眼 利幸

本県に多いヒノキについて、従来施業とは逆に間伐後直ちに枝打ちをすれば、約30%の防除コストを低減できると考えられた。間伐木の樹幹頂端からの距離が4~6m(可能なら3~7m)部



分を搬出して、利用・処分することで効率的に駆除できる。全国で始めて本虫をシイ類とクロバイの花で捕虫した。人工林周辺で大量に着花するシイ類が主要な餌となっている可能性が高く、そこから新たな防除技術開発に繋がる研究を実施していく。

○「サカキの新たな害虫ヨコバイの防除に向けた生態等実態調査(第2報)」

特用林産部 主任研究員 坂本 淳

本県産サカキは、日本一の生産量を誇る。しかし、平成14年頃からサカキの成葉に原因不明の吸汁被害が確認され始め、近年、その被害は県内全域に及び産地の維持が懸念されている。九州大学の協力によりオビヒメヨコバイ族の新属新種による被害と判明した。生態等は不明で有効な防除対策がないため、発生消長や薬剤効果の予備試験等を行った結果、年間を通じた発生消長を確認することができ、粒剤についても一定の効果があることが示唆された。



加害されたサカキと新属新種のヨコバイ

○「イタドリの栽培および優良系統の増殖」

特用林産部 主査研究員 杉本 小夜

イタドリは本県山間地域の郷土山菜であり、近年、栽培や新たな商品開発を望む地域が増加している。今回、栽培について収穫方法の違いによる収量の経年変化を調査するとともに、優良系統の大量増殖をめざし、組織培養による増殖について検討した。



組織培養中のイタドリ

その結果、収穫方法については、全ての若芽を収穫するより、1本残した方が、毎年継続して安定した収穫量が得られる可能性があること、組織培養については、春先が材料採取適期であり、初代培養にはMS培地が、継代培養には1/2MS培地が適していることが示唆された。

○「紀州材構造用床パネルの面内せん断試験」

木材利用部 主査研究員 瀧口 隆章

在来木造住宅での紀州材の新たな用途開発と利用量アップを目的に、木造在来工法の剛床（床工法の一つ）で利用可能なスギ製材厚板の幅

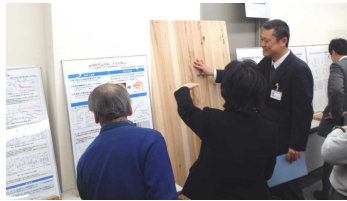


面内せん断試験の実施状況

はぎパネル（紀州材床パネル）を製造し、床倍率（地震力・風圧力などの水平力に対する床構面の剛性の指標）を算定するための面内せん断試験を実施した。その結果、紀州材床パネルの床倍率は、住宅の品質確保の促進等に関する法律（品確法）による構造用合板の告示値を上回り、合板と同等以上の強度性能を有することを明らかにした。

<ポスター発表>

成果発表会では、各研究員が取り組んでいる研究内容に関するポスター・資料等の展示コーナーを設け、詳細な説明や来場者からの質問等に対応を致しました。



■農林水産業競争力アップ事業

（平成29年度終了課題の成果概要）

本年度、下記の2課題が終了となります。詳細な内容は、研究推進室より新年度に発行される『研究成果集』に掲載されますので参照願います。「ヒノキ実生コンテナ苗」については、3月26日に高知県で開催する日本森林学会においてもポスター発表を予定しています。

○ヒノキ実生コンテナ苗の育成技術開発

（期間 H27～29 担当 竹内）

成果は前ページの要約を参照

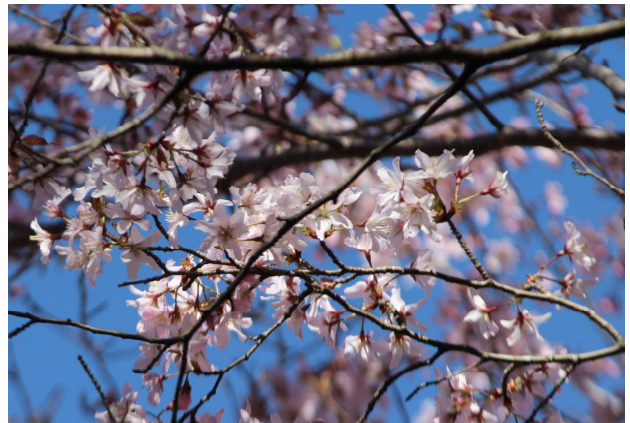
○森林防護柵を活用した誘導捕獲技術の開発

（期間 H27～29 担当 日下）

防護柵沿いで誘引餌と倒木等障害物による誘導により、くくりワナでシカを初心者でも効率的に捕獲できる技術開発を実施した。

★ 今、話題の最新ニュース ★

100年ぶりの新種、クマノザクラを発見！



国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所と、和歌山県林業試験場により、紀伊半島南部に未知の野生のサクラが分布していることを確認しました。国内の野生のサクラとして、およそ100年ぶりに新種の学名（和名クマノザクラ）が発表されます。

花や葉の形態が違うほか、開花時期がヤマザクラより早く、現地では3月初旬から開花が見られます。（詳細はホームページ参照）

● 林業普及指導員コーナー ●

○イタドリの普及の取り組みについて

平成25年度から日高川町美山地区で、イタドリの栽培実証試験を実施しており、より効率的な栽培に繋げるため施肥効果や収穫方法について調査をしています。

また、新たな商品価値を生み出すために、和歌山県工業技術センターと共同研究でイタドリの機能性成分の分析にも取り組んでいます。

来年度からは日高川町生活研究グループ「イタドリ部会」とも共同研究で新商品の開発に取り組んでいきます。



「イタドリ部会」と連携した栽培管理、桃山学院大学の学生達も体験学習に来園

（木材利用部 池田）

編集・発行 和歌山県林業試験場

〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬1504-1

TEL：0739-47-2468 FAX：0739-47-4116

※『やまびこ通信』は「和歌山県林業試験場のホームページ」にもアップしています。